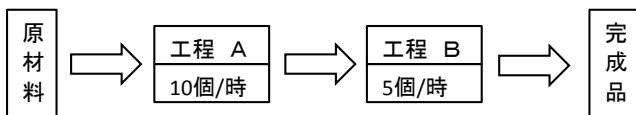


## 命題「部分最適の総和は、全体最適にならない」は真である(か)。

命題「部分最適の総和は、全体最適にならない」に出会ったのは、10年前前に新しい生産管理のあり方について模索していた時に、何かの書物か、Web上の検索でかは定かではないがどちらかで見つけた命題である。最近、すしの製造について具体的なプランを立てている途中で思い出したのである。その命題の真か偽は別としてすしの製造について計画立案を進めていかなければならないが、どうもその真・偽が気になってプランの立案が進まないのである。頭の体操程度ならよかろうと、少し本業の合間に考えてみた。

命題の真偽を検証するアプローチの仕方に、帰納法と演繹法がある。その何かは検索してみてね。ワシは数学者や論理学者ではないので、数式や論理式など駆使した演繹法は、その専門家にお任せすることとして、僅かながらの知識と経験を生かした帰納法でしか検証できないので、その手法を用いることとした。

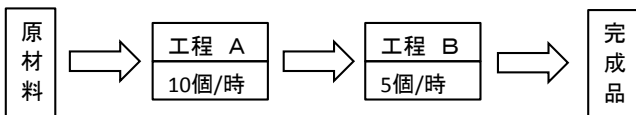
部分最適の総和が全体最適とならない一例①



何年も安定して、生産(8時間/日)を行っていた。改善活動により、工程Aが10個/時→15個/時に生産性が向上(部分最適化)した。しかし、完成品の数は、改善前40個/日、改善後40個/日でなら向上しなかった。仕掛が増えただけ。

ドラマ：改善前から工程Aを担うAさんは、工程Bの様子を見ながら隣のラインの応援を行っていたが、改善後その応援要請が増えた訳ではなかったため、フルタイム勤務から午前みのパートタイム勤務とされてしまった。悲劇である。こんなアホな会社はない。

部分最適の総和が全体最適とならない一例②



何年も安定して、生産(8時間/日)を行っていた。改善活動により、工程Bが5個/時→10個/時に生産性が向上(部分最適化)した。完成品の数は、改善前40個/日→80個/日に倍増となった。ところが需要は相変わらず40個/日のままだった。

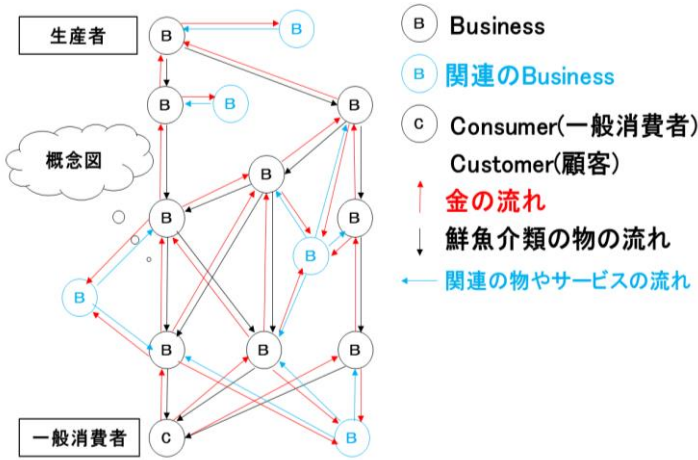
ドラマ：①毎日40個の在庫が発生した。②在庫削減を目的に値下げした。③値下げの甲斐なく需要は40個/日のままである。④減産に踏み切った。⑤AさんBさんフルタイム勤務→パートタイム勤務へ⑥値下げにより利益大幅減、稼働率50%減のためライン閉鎖の方針となった。AさんBさんの行く末は…。悲劇である。こんなアホな会社はない。この例では、①全体の定義を見誤った。②複数の部分最適を重ねてしまった。ことが最悪の事態に至ることになったのである。経営陣はこれを教訓としなければならない。それだけではない。まだ40個/日の需要が残っているということである。その事実を看過してはならない。最終消費者を見捨てることは、行ってはならないのである。源泉である。

当命題の例外(偽となる場合)は、全体が唯一の部分から構成されている場合である。しかし、現世でそんなものは存在しない。そして、もう一つの例外は、全く同じ条件に支配されている環境において、全く同じ振る舞いを行う複数の部分で構成されている全体の場合である。NHKのBSの番組で見たが、ビッグバン直後～ヒッグス粒子発生の際の僅かな時間にこの様な状態があったらしいが定かではない。全く現実離れた話である。

## 命題「部分最適の総和は、全体最適にならない」は真である(か)。

B to B、B2B、B to C、B2Cなるビジネス用語があるが、単体での評価に終止してはならない。木を見て森を見ず。そこだけでWin-Winなどと喜んでいては、社会の毒となる。まだ、三方よしが良い。そして究極の目標は「全体最適」である。

### 部分最適の総和が全体最適とならない 鮮魚介類流通の例



上記図を5W2Hで考察する。「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「なぜ」「どのように」「いくらで」の順で。「いつ」今だけ、「どこで」こだけ、「だれが」自分だけ、「なにを」これだけ、「なぜ」自己の利益の為に、「どのように」楽に、「いくらで」公費で。全ての後ろに「良ければ」を付けると恐ろしいことになる。正に社会の毒となる。しかも猛毒であり、全体に拡散し汚染する。全体を破滅へ導くことになる。

結論は、命題「部分最適の総和は、全体最適にならない」は真である。なぜなら、「部分最適」が「全体最適」に対する唯一の阻害要因となるからである。つまり全体最適を阻害するものは部分最適に他ならない。なぜなら、全体は複数の部分で構成されているからである。(但し、各部分が自ら悪くなることがない前提として。自ら悪くなる例：テロ行為、反社会的行為、不正行為、サボタージュ、等)

もう一つの結論は、お金の源は一般消費者であるということをお忘れしてはならないということである。部分最適を徹底的に排除し、弱い立場の方を全体で補完し、生産者～お金を出す一般消費者～それを食べて頂く将来ある方々まで、鮮魚介類界の全体最適を目指すことが究極の目標である。旧態依然の方法に拘泥される方には、その未来はない。旧態依然の方法は、その終焉の時期を迎えた。今こそ行動すべき時である。

「魚ばなれ」が死語となるように、そして食の「エサ化」を食い止める様に、皆でスクラム組んで頑張ろう。A11石川で頑張ろう。